ポスター | 薬剤情報システム
# ポスター12
# 薬剤情報システム
2019年11月24日(日) 10:00 〜 11:00 ポスター会場1 (国際展示場 展示ホール8)

[4-P1-2-01] 薬剤関連の情報リテラシーの現状と課題 ー薬剤情報リテラシー教育研究会　調査報告ー

○池田 和之[1]、岡橋 孝侍[2]、木下 元一[3]、小枝 伸行[4]、関谷 泰明[5] （1. 奈良県立医科大学附属病院　薬剤部, 2. 京都第二赤十字病院　薬剤部, 3. 名古屋第二赤十字病院　薬剤部, 4. 八尾市立病院, 5. 岐阜県総合医療センター　薬剤センター）

キーワード：Drug information system, education, Medical Professional

【背景】近年、医療現場でも情報システムの普及が進み、これらなしに業務を行うことができない。しかし医療専門職の教育等において、情報システムの取り扱いを含めた情報システムのリテラシー教育を受ける機会は十分とは言えない。

【目的】医療専門職ならびに医療機関等で医療情報システムに関連する業務を行っている職員およびシステムベンダなどにおける薬剤関連の医療情報（以下、医療情報等とする）のリテラシーについて調査を行い、医療情報等の教育の現状とその課題を明らかにしたい。

【方法】薬剤に係る業務に興味のある職員及び薬剤関連システムベンダを対象にアンケート調査を行った。アンケートは、薬剤師の講習会や医療情報技師のセミナー等で依頼し Webによる回答とした。
【結果】2019年6月現在、82件の回答があった。回答者の内訳は、薬剤師が79.3%医療専門職以外が14.5%と続いた。「大学、専門学校等で医療情報等に関する講義を受けたか」との問いには、75.6%が受けていないと回答した。さらに、「医療情報等に関する内容はどこで研修（学習）すべき」との問いには、大学・専門学校等が58.5%、職能団体の研修が48.8%、医療情報技師のセミナーが42.7%となった。なお、「医療情報技師（上級を含む）の資格」については、52.4%取得していると回答した。

【考察】本調査は、薬剤師の講習会や医療情報技師のセミナーで回答を募ったため、回答する医療専門職種や医療情報技師の取得の有無についてかなり偏りがある。しかし、薬剤領域の情報システムを利用する医療専門職は、薬剤師が多数を占めておりさらに、これらを管理する技術者は医療情報技師の資格を持つものが多い。これらに関する知識は、大学等の養成カリキュラムや卒後の職能団体等における研修の一環として習得すべきとの回答が多い。今後はさらに回答を募り現状を明らかにしたい。

©一般社団法人 日本医療情報学会

薬剤関連の情報リテラシーの現状と課題
－ 薬剤情報リテラシー教育研究会　調査報告 －

池田 和之[*1]、岡橋 孝侍[*2]、木下 元一[*3]、小枝 伸行[*4]、関谷 泰明[*5]
＊1 奈良県立医科大学附属病院 薬剤部、*2 京都第二赤十字病院 薬剤部、
*3 名古屋第二赤十字病院 薬剤部、 *4 八尾市立病院、 *5 岐阜県総合医療センター 薬剤センター

Current Status and Issues of Drug-related Information Literacy
- Research Report on Drug Information Literacy Education Research Group -

Kazuyuki Ikeda[*1] , Koji Okahashi[*2] , Kinoshita Genichi[*3] , Koeda Nobuyuki[*4] , Yasuaki Sekiya[*5]
*1 Department of pharmacy, Nara Medical University Hospital
*2 Department of pharmacy, Japanese Red Cross Society Kyoto Daini Hospital
*3 Department of Pharmacy, Japanese Red Cross Nagoya Daini Hospital , *4 Yao Municipal Hospital
*5 Department of Pharmacy, Gifu Prefectural General Medical Center

In recent years, the spread of information systems has been progressing at medical sites. However, in the education of medical professionals, the opportunity to receive information system education is not sufficient. Therefore, in order to clarify the current situation of education such as medical information and its problems, we surveyed medical professionals, staff handling medical information systems, system vendors, etc. about the literacy of medical information related to medicine. As a result, there were 137answers. As for the breakdown of respondents, pharmacists continued at 87.6%, except for medical professionals at 8.8%. 72.3% answered that they did not receive lectures on medical information at universities and vocational schools. In this survey, responses were sought at pharmacist workshops and Healthcare Information Technologist's seminar. Therefore, respondents are quite biased. However, pharmacists account for the majority of medical professionals who use drug information systems. Knowledge about medical information should be acquired as part of the training curriculum of universities etc. and training in professional organizations after graduation.

Keywords: Medical information system , education , Healthcare Information Technologist.

1. 背景

近年、情報システムが社会全般に浸透し若年者から高齢者まで幅広く利用されている。特に、「令和元年版情報通信白書」（総務省）によると、「2018 年における世帯の情報通信機器の保有状況は、「モバイル端末全体」で 95.7%、その内数である「スマートフォン」は 79.2%となり、「パソコン」（74.0%）を上回っている。」[1)]とあり、これに伴い SNS も広く利用されている。一方、これら SNS の利用による情報流出や不適切な情報発信などが社会問題となっている。これらに対し、小学校等での初等教育での情報システムの取り扱いに関する教育も準備が進められている。

医療においても情報システムの普及が進み、平成 29 年度の調査では、一般病院の 46.7%%（400 床以上の病院では 85.4%）に電子カルテシステムが導入されているとある[2)]。また、レセプトの電子化も進められ、400 床以上の病院の医科レセプトの 99.3%は電子的に請求されている[3)]。このように、医療現場では情報システムなしに業務を行うことができない環境となっている。一方、医療現場で取り扱う情報は、個人情報保護法でも要配慮個人情報にあたるものが多いなど大変機微な情報が多い。したがって、一旦情報が流出するとその被害は大きなものとなる。

しかし医療現場で働く医療従事者に医療情報の特徴を踏まえたうえでの教育は十分されていると言えない。特に、医療情報を直接取り扱う医療専門職の教育等において、情報システムの取り扱いを含めた情報システムのリテラシー教育を受ける機会は十分とは言えない。

2. 目的

医療情報の中でも、電子処方箋や電子版お薬手帳など電子化や標準化が言われながら大きな進展がみられていない薬剤関連の情報システムに関する分野を対象に、医療専門職ならびに医療機関等で医療情報システムに関連する業務を行っている職員およびシステムベンダなどにおける薬剤関連の医療情報（以下、医療情報等とする）のリテラシーについて調査を行い、医療情報等の教育の現状とその課題を明らかにしたい。

3. 方法

医療専門職ならびに医療機関等の医療情報システム関係者を対象にアンケート調査を行った。アンケートは、薬剤師の講習会や医療情報技師のセミナー等で依頼し Web による回答とした。アンケート内容は、業務の内容や職種、大学等の教育課程での医療情報等に関する受講状況、教育課程終了後の医療情報等に関する受講状況、職務経験・取り扱う医療情報システム、医療情報技師資格の有無などとした。

4. 結果

2019 年 8 月現在、137 件の回答があった。回答者の内訳は、薬剤師が 87.6%医療専門職以外が 8.8%と続いた。また、「医療情報技師（上級を含む）の資格」については、34.3%取得していると回答した。（図 1）

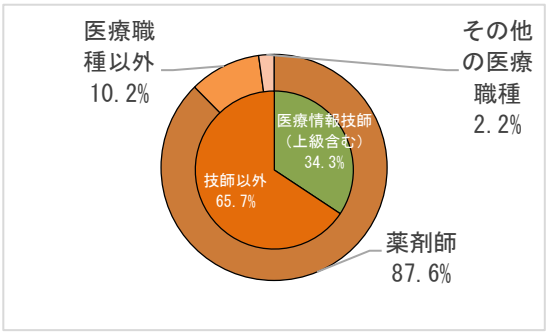

図 1 回答者の職種および医療情報技師（上級含む）認定取得の有無

「大学、専門学校等で医療情報等に関する講義を受けたか」との問いには、72.3%が受けていないと回答した。一方、「就職後、専門学校等で医療情報等に関する講義を受けたか」との問いには、63.5%が受けたことがあると回答した。「なぜ講義を受けたか」との問いには、医療情報技師（上級を含む）（以下、技師とする）の資格有無にかかわらず、自己研鑽のためとしたものが多数を占めた。一方、職員・社員研修としたものは少なかった。（図 2）

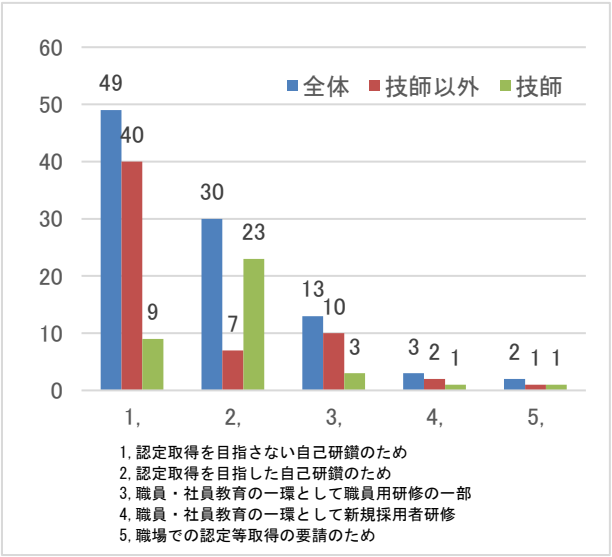

図 2 講習の受講理由

また、「どこで受講したか」の問いについては、技師では、医療情報学会の学術大会等のシンポジウム・講演会や医療情報技師のセミナーとの回答が上位を占めたのに対し、技師以外では、各医療専門職種の職能団体の研修、医療専門職種の学会の講習会が多くを占めていた。一方、医療系以外の情報関連の学会の講習会、大学等での卒後研修、行政機関主催の講習会は技師、技師以外共に少数であった。（図 3）

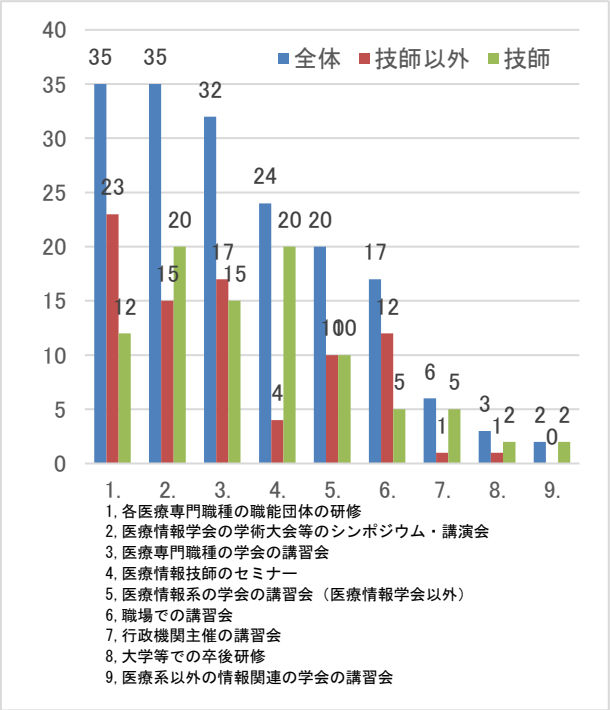

図 3 受講講習の主催

さらに、「医療情報等に関する内容はどこで研修（学習）すべきか」との問いには、技師では、上位より大学・専門学校等の医療関連職種の養成カリキュラムの一環として、医療情報技師のセミナー、各医療専門職種の職能団体の研修としてであった。技師以外では、大学・専門学校等の医療関連職種の養成カリキュラムの一環として、各医療専門職種の職能団体の研修として、各医療専門職種の学会の講習としてであった。一方、医療情報系の学会の講習会（医療情報学会以外）、行政機関主催の講習として、医療系以外の情報関連の学会の講習としては技師、技師以外共に少数であった。

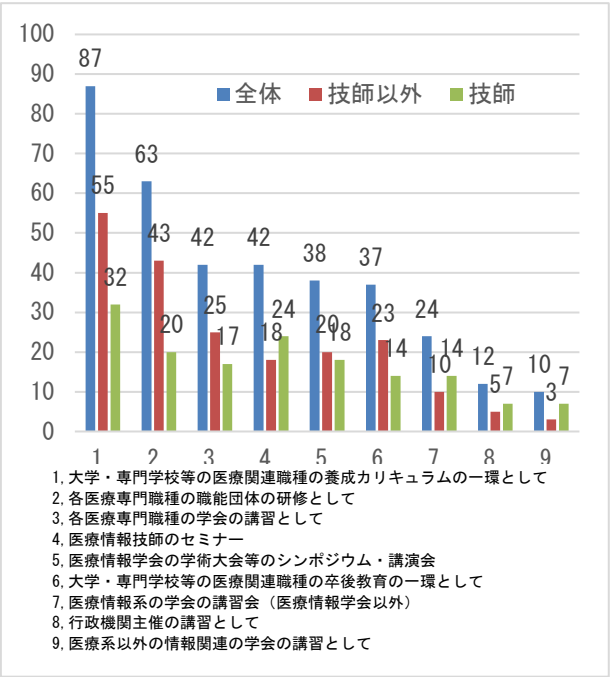

図4 医療情報等に関する講習会の在るべき主催

5 考察

本調査は、薬剤師の講習会や医療情報技師のセミナーで回答を募ったため、回答する医療専門職種や医療情報技師の取得の有無についてかなり偏りがある。しかし、薬剤領域の情報システムを利用する医療専門職は、薬剤師が多数を占めておりさらに、これらを管理する技術者は医療情報技師の資格を持つものの回答が多い。今回の回答者には薬剤師でかつ技師の資格を持つものが 30 件あった。

現状では、医療情報等に関する知識は自己研鑽により学んでおり、その受講講習の主催も職能団体や関連学会でのシンポジウム等となっている。一方、これら講習会の主催の在るべき主催としては、大学等の養成カリキュラムや卒後の職能団体等における研修の一環として習得すべきとの回答が多かった。薬学教育モデル・コアカリキュラムには、情報リテラシーとして、「情報伝達技術（ICT）の発展に合わせた効果的なコンピューターの利用法とセキュリティーの知識を身につけ、必要な情報を活用する能力を修得する。」とある。また、薬学臨床として医療現場での実習前に「処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。」とあり、一般的な情報セキュリティや電子カルテシステム等の概要を学ぶこととされているが、医療に特徴的な医療情報や医療情報システムならびにその取り扱いについては、十分なカリキュラムが記載されていない。したがって調査結果にみられるよう、医療情報に関する知識習得を大学等の養成カリキュラムにて取り組むべきであり、また既卒者については、職能団体等における研修の一環として行うべきと考える。

参考文献

1)「令和元年版情報通信白書」.総務省.
[http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r01/pdf/01honpen.pdf(cited 2019-Aug-16)]
2) 電子カルテシステム等の普及状況の推移. 厚労省.
[https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000482158.pdf (cited 2019-Aug-16)]
3) 請求状況（医療機関数・薬局数ベース）【令和元年 5 月診療分】.
社会保険診療報酬支払基金.
[https://www.ssk.or.jp/tokeijoho/tokeijoho_rezept/tokeijoho_rezept_r01.files/seikyu_3105.pdf(cited 2019-Aug-16)]